

Echōle

[エコーレ]

Vol.62



第15回トライアルコンサート～オーケストラとの共演～
東邦音楽大学 グランツァール

特別鼎談会 東邦音楽大学のピアノ教育

教員のよこがお

対談 音楽に関わる仕事で活躍する卒業生

演奏会イベントレポート



東邦音楽大学の

ピアノ教育



1人ひとりの個性を重視した、親身なレッスンと、作品の時系列に沿った体系的な学修を行なっているピアノ専攻。さらに、年2回のウィーン研修を行ない、マーティン・ヒューズ氏とダブルティーチャー体制で、より演奏家の育成に特化したKonzerftach(演奏専攻)。これら東邦音楽大学のピアノ教育について、専攻主任大場文恵特任教授、藤井一興特任教授、秦はるひ特任教授が鼎談形式でその特色と魅力をご紹介します。

まず、先生方それぞれの視点から、東邦音楽大学のピアノ教育の特色がどのようなところにあるか、お話しいただけますでしょうか。

大場 ピアノ専攻に限りますが、本学では「音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目的とする」という建学の精神に基づき、中学生から大学院生まで音楽専門の一貫教育を行なっておりますが、このような学校は他にはあまりないかと思えます。中には中学1年生から大学院までの長い間を本学で過ごす学生もいます。中学・高校と、大学の教員が非常に密に連絡を取り合いながら長い期間の音楽教育を行なっており、レッスンや試験の際も中学生・高校生を大学の教員も見ますし、試験の課題曲も附属

の先生と大学の教員と一緒に考えて、どういうふうにするかを育てて行けばいいか全体を見通して設定しております。一貫教育のメリットとして、中学生・高校生にとって大学生や短大生が同じ門下にいるということで親しく感じられ、自分からこれからのように学んでいくかを見据えることができることだと思います。

秦 私はお二方と比べると東邦で教えるようになってまだ日が浅いのですが、中学から専門的な音楽教育が受けられることには非常に大きな意味があると思います。これまでピアノの指導に長く携わった経験から言いますと、小学校高学年から中学生くらいはすぐ力が伸びるので、とても大事な時期なんです。しかも、それまでの子どものための曲から大人のための作品を弾くようになる時期でもありますので、中・高校生の指導は非常に重要です。

もちろん中学生でも個人的にピアノを習うことはできますが、こういう音楽学校に通うということはまた別の意味があり、周りには他の楽器の人やアンサンブルなどをする機会もあつて、良い環境の中で勉強できるということです。これが大学生になるとだいぶ出来上がっている一むしろ出来上がらなければいけないので(笑)、そこまでの過程を私は大事に考えています。

大場 東邦の学生・生徒はとても人柄が優しく、ライバル意識がないわけではありませんが、友だちを思いやる気持ちを持っています。ライバルという立場にある人のことも、きちんと認めることができるんですね。

秦 高校生の試験で、ピアノ科も副科も聴きましたが、感じたのは副科の生徒も含めて真面目に勉強していることです。自分の力にに応じた作品に真摯に向き合っていることが印象深かったですね。全体に自分のやるべきことに真面目に向き合い、節度を持って中学・高校の生活を送っている。演奏にはそういう普段の生活が出来ますので、とてもいいことだと思います。



大場 文恵 特任教授・ピアノ専攻主任
藤井 一興 特任教授
秦 はるひ 特任教授 (敬称略)

大場 ピアノ専攻の大学生の場合は3年次に、東邦ウィーンアカデミーにて15日間のウィーン研修があることが大きな特色です。今はコロナ禍で残念ながら行くことはできませんが、それに代わるものとして全員が演奏の動画を録って送り、向こうの先生方にコメントをいただくという形を取っています。

秦 ウィーン研修では最終日には修了演奏会も行なっていたようですが、レッスンを受けただけではないことが良いですね。

東邦音楽大学の大きな特徴として、演奏家を目指す上でより専門的な教育を受けることができるKonzertfach(演奏専攻)の存在があります。

藤井 私はKonzertfachができたときから指導していますが、毎年2回ウィーン研修があり、マーティン・ヒューズ先生に直接教えることができるというのは本当に素晴らしいことです。基礎的なこと、様式感などをすべて教わってきますので、学生にも大きな変化があります。もちろん日本でも勉強はできますが、やはりウィーンの良い空気を感じながらヒューズ先生にじっくり見ていただくのはすごく贅沢なこと、大きな意味があると思います。

秦 やはりウィーンにキャンパスがあるというのは日本唯一ですよ。藤井先生に仕上げをしていただくという「ダブルティーチャー制」は理想的なものだと思います。

大場 年に2回、それぞれウィーンに10日間滞在する間に、90分のヒューズ先生のレッスンが3回ずつありますからね。

藤井 もともとバッハの《平均律クラヴィア曲集》が大好きな学生がいたのですが、ウィーンに行つてフーガが見違えるようになりました。4声部の音色が全部分かれていてね。その学生は、「私は東邦で留学をさせてもらったようなものです」と言っていました。

秦 年2回ということは半年に1度でしょう？「準備をしたらすぐにウィーン」ですよ(笑)。

藤井 それから、弾いていると感情が入りすぎてテンポがどんどん速くなり、いつも「焦らないで」と指導していた学生がいました。ウィーンでも同じことを言われて、すごくテンポが安定しました。



秦 もちろん日本でもしっかりと指導されていることを、ウィーンの先生に言われると改めて「直さねば」と実感するのですね。

大場 Konzertfachは、カリキュラムもピアノ専攻とは異なっています。例えばレッスン時間はピアノ専攻だと45分ですが、Konzertfachは毎週90分。授業も、同じような内容であつてもより高度であり、受講する人数も少ないです。

藤井 Konzertfachでは試験で弾く曲数も多いです。大場 例えば前期・後期試験では20分間演奏しますし、それ以外にも1人約30分のプログラムを構成する演奏会が年に2回ありますので、かなりの曲数を学ばないといけません。

藤井 学生にとつてみれば、まだレパートリーが少ないところに、どんどん譜読みをして増やしていかなければならないというのは、大変だけれども何にも代えがたい経験だと思います。しかも試験のためだけではなく、音楽ホールのグランツァールで発表できるわけですからね。

大場 本学では1年に一度、オーケストラをバックにコンチェルトを弾くことができる「トリアルコンサート」を開催しています。これはKonzertfachの学生に限らず2〜4年生を対象にオーディションをして、選ばれた学生が演奏します。

藤井 課題曲も年によってグリーグのコンチェルトだったりベートーヴェンのコンチェルトだったりするので、コンチェルトを勉強する機会にもつながるわけです。

大場 Konzertfachのカリキュラムの中にはコンチェルトを勉強する項目もありますので、学生たちはそれとオーディションを併せて勉強しています。

藤井 しかもトリアルコンサートでは、本番前にオーケストラとのリハーサルが3回くらいあつて、それからゲネプロ、本番なので、これはとてもありがたいですよ。これは普通ではありえませんが。

理事長からのごあいさつ Greetings from the President



学校法人 三室戸学園 理事長
東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学
学長
三室戸 東光
Harumitsu Mimurodo

卒業生の皆様 今日では、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

令和3年度を振り返りまして、大学、大学院、短期大学、附属中学校・高等学校、第二高等学校はじめ、三室戸学園は令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け教職員の組織を超えて共有し教職員が一丸となり対面授業、対面レッスンを実施するための感染防止策を徹底し、授業・レッスンの対面実施に努めました。

さて、専攻別入学者選抜制度の変更により選抜形態も変わりましたが、卒業生推薦型選抜の他、指導者推薦型選抜もありますので是非卒業生の方にもご協力をいただけたらと思っております。

東邦は建学の精神のもと中学校から大学、大学院までの一貫教育の実現で少人数制による個を尊重したきめ細やかな教育を実践しております。更に東邦音楽大学は附属中高二高との高大連携接続を中高一貫教育の柱として行っております。特にピアノレッスンについては大学Konzertfach(演奏専攻)は文京キャンパス中高大を通じたピアノ演奏特別レッスン制度も試みています。

ウィーン研修については、ここ2年間は新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら実施出来ず、ビデオレッスンにより、一人ひとりの学生の専攻レッスンまたは実技試験時等をビデオカメラで撮影しウィーン研修所に送り、ウィーン教授陣にビデオを見ていただき、そこでレッスン形式で先生が指導方法を文章にしたり、ビデオに収録し、日本語字幕を入れ、学生個人個人に視聴していただいたり、マルティン・ヒューズ先生とノイバウアー先生の講座を全員に視聴していただく形式に切り替えさせていただきました。

卒業生の皆様のご支援、ご声援をお願い申し上げます。

先生方は、普段のレッスンの際にどんなことを心がけていますか。

秦 私はこの1年間、高校生をレッスンしてきましたが、「自分の力がどのくらいあるか」をわかるのは難しいことです。「これは弾けません」「こんな長い曲、私には無理」と言う人もいれば、譜読みや暗譜が遅くて悩んでいる人もいます。そこで私は、ある日突然弾けるようになることや、ある日突然曲が仕上がるといったことはなく、毎日の練習、毎週のレッスンで少しずつ積み重ねていくことが必要であることを教えました。皆さん、光るものを自分の中に持っているの、あとは練習方法がよければ、自分の中のいいものが出てくると思っています。

例えば譜読みが苦手な学生には、「来週はここまでね」と少しずつ区切って課題を出す。「長い曲が無理」という学生も、場面ごとに分けてレッスンをしていきます。「まるでパズルみたいだね」と言っていました。がまさにその通りで、パズルというのはいつぱんにはできなくて、部分部分でできたものを最後に組み立てていくものです。そういう練習のやり方を覚えていくことで、試験などでもきちんと弾くことができ、「自分が積み重ねたら、こういうことができるのだ」ということをわかってくるわけです。結局、自分を育てるのは自分ですから、私はそのやり方を教えてあげて、ちよつと背中を押してあげる役目だと思っています。

藤井 弾くべき曲が多いとどうしても気持ち焦ってしまつて、じつくりと腰を据えて向き合うという気持ちでなくなり、テンポが急いでしまつたり表現が浮ついてしまつたりして、弾けるものも弾けなくなつてしまつてしまいます。そこを、東邦の先生方はじっくりと、長期的に見ています。ピアノというものは今やっている一曲だけではない、ということを知っているからなんです。Konzerftachの学生はさらに弾かなければならない曲が多いわけですから。ただ、学生たちもそれを最初からわかつて入ってくるので、喜んで練習していますよ。

大場 入試のときから、そういうカリキュラムに付いていけるかどうかを見ているので、Konzerftachにはそれをこなすことができる学生が入っていますね。

大場 私が全体的に心がけていることは、言葉がけです。例えば、学生に対してどういう言葉を使うか。人によって受け取り方が違いますので、同じことを言うときでも、それまでどういう勉強をして



きたか、どんな性格なのかまで考えて、学生の心に入つて行くような話をするようにしています。それから、「こうした方がいい」と言うときに、その理由をきちんと説明すること大切だと思います。

最初に秦先生が「中学・高校での指導が大事」とおっしゃっていました。それに対して大学・

大学院は教育機関としては最終のもので、その後は社会に出ることになります。そのために、自分で考えてやっていけるような学生を育てないといけない。レッスンの際に理由をきちんと話すことで、そこにつなげていければいいと思っています。

藤井 我々が演奏のノウハウを学生に教える際には、結局はテンポやフレーズ、フィンガリングやペダリングを説明するなど、細かなことを積み重ねるしかない。それによって様式感が全然変わってくるんです。

秦 もちろん、譜面を正しく弾くためのテクニックもあります。が、皆さんに聞いていただくには、それプラス演奏していくための秘密のテクニックのようなものがあります。そういう意味で、こちらにいらつしやる現在進行形で演奏活動をしている先生に習えるということは大事だと思います。

それでは、東邦で学ぶ学生に望むことはどんなことでしょうか。

大場 好奇心をたくさん持つてほしいですね。もちろんピアノに関しても、ありとあらゆることに好奇心を持つてほしいですが、それ以外に例えば自分の専攻以外、さらには音楽以外のことに好奇心を持つて学んでほしいと思っています。

秦 私も大場先生の意見に同感で、とにかくいろいろなことに興味を持つてほしいです。あるとき高校生の男子に「ピアノ以外で何に興味があるの？」と尋ねたら、「僕は宇宙が好きです」と答えました。

藤井 素晴らしい！

秦 ピアノを聴いているととてもそうは感じなかったのですが（笑）、「それはいいじゃないの！」と。卒業して年齢を重ねれば重なるほど、成績やコンクールの結果ではなく、「自分は自分」となっていくんです。いろんなものを見たり聴いたり、いろいろな人に刺激を受けながら、「自分」を形作っていけるといいなと思います。

藤井 ピアノって、22歳や24歳くらいで全部マスターできるわけがなく、先はもつともつと長いんです。大学や大学院を卒業しても、まだ入り口に立つただけですよ。その先も一生音楽を学んでいくということを理解していただきたいですね。だからこそ、芸術や文学のみならず、この社会、政治・経済のありとあらゆることに興味を持ってつこと。それらはすべて関係していますから。

教員略歴(敬称略)

藤井 一興 特任教授
東京藝術大学3年在学中、仏政府給費留学生として渡仏。パリ・コンセルヴァトワールにて作曲科、ピアノ伴奏科共に一等賞で卒業。パリ・エコール・ノルマルにてピアノ科を高等演奏家資格第一位で卒業。作曲をオリヴィエ・メシアン、ピアノをイヴォンヌ・ロリオ、マリア・クルチオ、ピアノ伴奏をアンリエット・ブユグ＝ロジェに師事。メシアン国際コンクール第2位(1位なし)、マリア・カナルス国際コンクール第2位等多数のコンクールに入賞。色彩豊かな響きでモーツァルトからメシアンまでCDリリース。世界初のフォーレのピアノ全集を校訂する。

秦 はるひ 特任教授
東京藝術大学付属音楽高等学校を経て、同大学、同大学院を修了。在学中より邦人作品初演を盛んに行い、パッサから現代作品まで幅広いレパートリーを持っている。ドビュッシー国際コンクール第1位受賞以後、ソロを中心に、多方面に活動。また大学院卒業と同時に東京藝術大学講師となり、36年間、同大学と付属高等学校で後進の指導にあたつた。門下からは国内外のコンクール入賞者を多数輩出している。CD録音など幅広く活動。パリにて9年間H・バルダ氏、A・ケフレック氏と共にマスタークラスを主宰。ソロアルバム「パッサ・頌」等をリリース。イル・ドゥ・フランス国際ピアノコンクールなどの国際コンクールの審査にもあたる。

大場 文恵 特任教授・ピアノ専攻主任
東京藝術大学付属音楽高等学校を経て、同大学音楽学部ピアノ専攻を卒業。卒業後は、同大学院助手を務めた。在学中より独奏・伴奏・室内楽の演奏活動を行い、演奏会のほかNHKなどの放送にもたびたび出演した。勝谷壽子、井口秋子、伊達純、クラウス・シルデの各氏に師事。近年は連弾や2台ピアノ、朗読とのコンサート、及び演奏法や指導法についての講演、コンクールの審査も行っている。また、東邦音楽大学出版の「表現を高めるための毎日のピアノエクササイズ」の監修を行った。

音楽以外の趣味

絵を見ることは好きです。モネが大好きなので、スイスでオペラをやっていたとき、稽古が早く終わったらチューリッヒ美術館に「睡蓮」を観に行っていました。それから、温泉に行くこと。仕事であちこち行くので、1泊多くできるときには温泉に行って、美味しいものを食べてお酒を飲む。鉄道に乗ること自体も好きなので、仕事をうまく使って旅を楽しんでいます。あとはラグビー観戦ですね。日本でワールドカップが開かれたときには決勝戦を観に行きました。スポーツは全般的に好きです。スポーツの極限が音楽と近い気がして、イチローさんの頭の中とかにすごく興味があります。

教員として心がけていること

学生には、大学に在るうちにできるだけプロと同じような合奏現場（環境）を体験させてあげたいと思っています。プロがアマチュアと違うところはいろいろありますが、例えば、リハーサル初回までに合奏の中でちゃんと演奏できる状態に準備することや、指揮者がいつ振り出しても演奏できる等。また、指揮者からの指示（言葉）を待つだけでなく、奏者自身でアンサンブルしていくことも求められます。

このようなプロの環境に対応できるように、授業では「音楽の中で今何が起こっているのか」を把握できるようにしてあげたいと思っています。

大学のウインドオーケストラを担当し始めて、楽譜にかじりついていた学生も、徐々に自分達で音楽を作ろうという姿勢に変わってきました。私が言葉で説明しなくても、指揮を通してアイコンタクトでできる瞬間も増えてきました。

どんなアンサンブルのアンテナの感度をあげていき、集まっていけるように合奏をもっと掘り下げて欲しいですね。

学生には、普段からいろいろなことに興味を持ってほしいと思います。音楽はもちろん、絵でも何でも良いですが、良いものに触れるということは音楽家としてやっていく上でとても大切なので、人生の先輩として「いろいろなことを幅広く」と言い続けたいです。

第7回

教員のよこがお

本学園の教員おひとりにスポットを当て、その人となりに迫るコーナーです。
第7回目は、特任准教授を務める指揮者の
小林恵子先生にご登場いただきました。

小林 恵子先生

山梨大学教育学部音楽科卒業。洗足学園音楽大学附属指揮研究所マスターコース修了。ミッドヨーロッパ2007国際指揮マスタークラス第一位受賞。ハルヴィル城オペラ（スイス）の他、国内外で指揮。合唱指揮者及び鍵盤奏者としても数多く出演。東京佼成ウインドオーケストラ副指揮者（2004～06年）、東京吹奏楽団正指揮者（2016～21年）を経て、現在、日本ウインドアンサンブル《桃太郎バンド》首席指揮者。東邦音楽大学特任准教授。相愛オーケストラ、東京音楽大学吹奏楽アカデミー専攻、山梨大学教育学部、各講師。著書『吹奏楽のためのスコア入門』他。東京佼成ウインドオーケストラ、シエナ・ウインド・オーケストラとのCD等が発売。2011年、在スリランカ日本国大使より在外公館長賞授与。

音楽の道を志したきっかけ

私は音楽大学出身ではありません。教員になったかったので山梨大学の教育学部音楽科を選びました。中学校の教員を目指すにあたり、教員になる前に指揮を勉強しようと思い、大学4年生の時に洗足学園音楽大学の指揮研究所の門を叩き、秋山和慶先生に師事し始めました。教員になつてから合唱部や吹奏楽部などを指導するには、やはり指揮が上手な方がいいですからね。

指揮を勉強し始め2年目、オルフの《カルミナ・ブラーナ》の合唱副指揮の機会に恵まれ、ある日、合唱の練習に本番の指揮者がいらつしやいました。

すると、ピアニストの最初の音から自分が振るのとはまるで変わったんです。「プロの指揮者ってこんなに違うんだ！」と衝撃を受け、改めて「指揮って楽しい！」と実感して、その日のうちに指揮者になりたいと思いました。だから、指揮者を目指すのは23歳になつてからということになります。

その後、東京佼成ウインドオーケストラ副指揮者オーディションに合格し、プロとしての指揮活動が始まりました。東京吹奏楽団正指揮者に就任させて頂いたり、吹奏楽を中心とした活動につながっています。

思い出の一品

実は小学4年生からフルートを吹いていました。「吹奏楽の父」と称された

作曲家のアルフレッド・リード先生がご存命の頃、毎年日本で演奏者を公募してリード先生の指揮で演奏するという「音の輪コンサート」が開かれていて、私は高校1年生から大学1年まで参加していました。このサインは、最初の年にリード先生の交響曲第3番を演奏したときにいただいたものです。この4年間は貴重な経験で、若い人にリード先生のことを伝えていかなければいけないとも感じています。



音楽に関わる仕事で活躍する卒業生たち



K BALLET COMPANY リハーサルピアニスト

塚越 恭平

対談



大久保 惇史

新国立劇場オペラ研修所第23期生



ピアノリストの塚越恭平さんと声楽家（バリトン）の大久保惇史さんは、ともに2017年に東邦音楽大学を卒業し、現在はそれぞれの道を歩んでいる。中学時代に知り合い、大学では仲のいい同級生として、毎日の練習から演奏会まで大久保さんの伴奏は常に塚越さんが行なうなど、互いを認め合い、切磋琢磨してきた2人。音楽の道を目指した理由から東邦の思い出、そして現在の活動などについてお話しいただいた。

Q 現在はどんな活動をされているのでしょうか。

大久保 新国立劇場オペラ研修所に在籍しており、3年間のカリキュラムの2年次になります。内容としては1年に3回の公演がありまして、オペラ公演が2本と、コンサート公演が1本になります。留学のカリキュラムもあり、本来なら2年次にイタリア、3年次にドイツに短期間の留学があります。普段の授業としてはコレペティ（コレペティール）によるレッススがメインであり、そこに演技指導やバレエなども加わります。今年はできていないのですが、日舞とか剣さばきのレッスンもあります。もちろん語学の授業もあり、発音を専門に見てくださる先生もいて、ディクシオンの指導もしていただいております。

塚越 僕はバレエダンサーの熊川哲也氏率いる

K BALLET COMPANYでリハーサルピアニストをしております。バレエ公演の演目の稽古のための伴奏ピアニストですが、本番のオーケストラでピアノが必要ときには弾くこともあります。

大久保 コレペティみたいな感じ？

塚越 指導はしないですね。もちろん、バレエの用語などは熟知していないといけません。

大久保 バレエずっとやってたからね。

塚越 小学4年生から高校3年生まで習っていました。バレエピアニストとして、バレエ経験者だからこその呼吸やタイミングなどもあると思います。

Q それぞれ、どんなことから音楽の道を目指そうと思ひ、どうして東邦を選んだのですか。

大久保 中学時代に合唱部に入っていたのですが、顧問の先生に憧れて、中学校の教員になって合唱部を指導したいと思いました。大学2年生までは教員を目指していて、教職課程も最後まで取ったのですが、結局は演奏家を目指すことにしました。

東邦を選んだ理由は、高校時代にいろいろなオーブンキャンパスに行った中で、川越キャンパスの魅力が半端なかった（笑）。緑が豊かで畑に囲まれた、閑静な雰囲気があるのが気に入りました。あとは少人数制だったこと、自分次第でいろいろなことができるということで選びました。

塚越 僕は5歳からピアノを習っていたのですが、プロの演奏家になろうということとは全く考えていませんでした。小さい頃からただクラシックが好きで、祖父の持っていたCDとかレコードをよく聴いていて、ピアノも自分から「やりたい」と言い出しました。そして『シャイン』という映画を見てラフマニノフのピアノ協奏曲第3番に出会い、「ピアニストになりたい」と思ひま

した。今でもラフマニノフは大好きです。中学時代は剣道部に入っていたのですが、姉が東邦の附属高校で音楽をやっていたこともあって、東邦高校に進むことを決めました。実際に東邦音大に入ってみると、生徒同士のバチバチした感じもなく、とても温かい環境で学べたことが本当によかったですね。

Q お二人は大学時代から一緒に活動することが多かったようですが、どんな思い出がありますか？

大久保 実は、幼稚園と中学校も一緒なんです。幼稚園時代はお互い知りませんでした。

大久保 中学校のときもそれほど話したわけではありませんでした。大学に入ってオリエンテーションのときに「見た顔がいるな」と声を掛けたのが最初です。大学時代は毎日のように川越で夜9時まで練習していたのですが、いつも付き合ってもらっていたのが一番の思い出です。

塚越 それがけっこの今に生きていて、本当にいろんな曲を弾かせてもらいましたので、初見能力が身に付きました。今の仕事では見てすぐ弾けるということは必須なので。

大久保 彼は本当にクラシックに詳しく、帰りの電車の中でもいろいろな話を聞かせてもらいました。いろいろな歌手やピアニストについて教えてもらったり、聴くべき曲や演奏を薦めてくれたりと、聴く耳を育ててもらいました。しかも、試験のときから学内の発表会まで、全部伴奏を弾いてもらったんです。

塚越 なにしろ素晴らしい声なので、試験でブラームスの《五月の夜》を演奏したときにはピットとききましたよ！

大久保 いやいや、ピアノに引っ張ってもらったから。

塚越 卒業演奏会でも同じ曲を演じたのですが「よくぞこの曲を選んできた！」と思いましたが。

Q 東邦音楽大学で学んだことで、特に印象に残っているのは？

塚越 2年生のときに演奏家コースができてそちらに移ったのですが、年2回あるウィーン研修は僕にとって本当に大きな経験でした。特に向こうで勉強した様式学は非常にためになりました。絵画をたくさん見たりして、いろいろな面から作品の見方が変わりました。それから、ウィーン国立音楽大学の教授であったマーティン・ヒューズ先生にレッスンを受けたことも大きかったです。先生自身イギリスに生まれてパリ、ロシアで学び、ドイツやオーストリアで教えていた方ですから、どの作品を弾いても先生の音からその国や時代の香りがするんです。その音を肌で感じられたことは非常に貴重な機会だったと思います。ハンガリーにも卒業演奏旅行に行き、人生1回分くらいの経験をしたような気がします。

大久保 それから、東邦では本番の機会が多かったなと思います。学内演奏会では全員が大きなホールで演奏できますし、トライアルコンサートはオーディションがありますが、オーケストラをバックに1人で歌う経験ができました。そんな貴重な機会はなかなかないですよ。

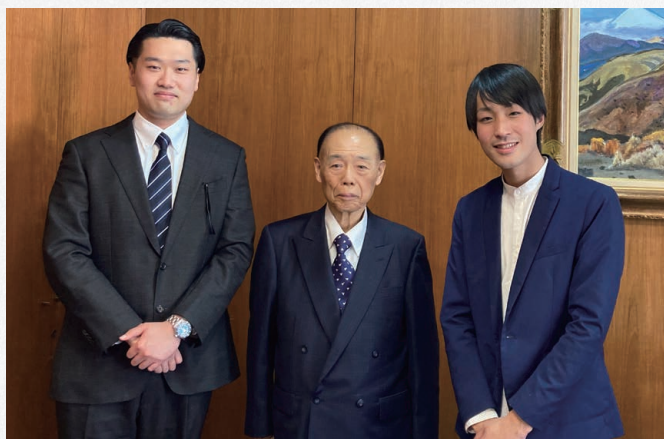
塚越 僕はトライアルコンサートでは、グリーグのピアノ協奏曲を弾かせていただきました。しかも、合わせ練習が3回くらいあるんです。普通コンチェルトを弾く際にそんなに合わせはしませんから、練習の機会を与えてくれたことは非常にありがたいですね。

Q 今後どんなふうに活動していきたいとお考えですか。

塚越 僕の所属しているK-BALLET COMPANYは、舞台やセットなどが本当に素晴らしいのですが、それはやはり熊川哲也ディレクターの才能なんだと思います。だからまだしばらくは、熊川ディレクターの芸術に触れていたいと思っています。K-BALLET COMPANYさん

パートリを全部弾きたいし、音楽スタッフとして新作バレエの制作に今後も関わっていきたい。シーンに合う曲目を提案して、僕の弾く音から熊川ディレクターが振りを付けて行く。その緊張感はずいぶんありますが、ものすごく勉強にもなっています。将来的には自分の音楽スタジオを作って、今はまだあまり知られていないバレエピアノを教えたかったら、若い世代が輝ける場所になりたいという夢もあります。

大久保 まずは新国立劇場でのデビューを目指しています。先の話をすると、今オペラを見に来られるお客様は若い人が非常に少ない。この現状には少々不安を覚えています。将来的には、若い人を含めてより多くの方に見ていただけるようなオペラ公演ができるよう、自分も一層のクオリティアップを図り、日本のオペラ界に貢献できる歌手を目指していくつもりです。



取材後に理事長室にて

大久保 惇史

声楽専攻2017年卒
新国立劇場オペラ研修所第23期生



「新国立劇場オペラ研修所2021年度試演会『ジャンニ・スキッキ』」 ©平田真璃

東邦音楽大学音楽学部音楽学科声楽専攻卒業。併せて三室戸貴光奨励賞受賞。同総合芸術研究所修了。現在新国立劇場オペラ研修所23期在籍。

第87回読売新人演奏会出演。研修所公演、チマローザ《劇場支配人》ストラビーニオ役(日本初演)、《ジャンニスキッキ》ジャンニスキッキ役、《ドン・ジョヴァンニ》ドン・ジョヴァンニ役で出演。声楽を勝部太、故日比啓子、永井和子各氏に師事。

塚越 恭平

ピアノ専攻 演奏家コース[現Konzertfach(演奏専攻)]2017年卒
K-BALLET COMPANY リハーサルピアニスト



東邦音楽大学附属東邦高等学校を経て、同大学演奏家コースを卒業。第66回全日本学生音楽コンクール東京大会入選。第6回エレーナ・リヒテル国際ピアノコンクール第2位。第87回読売新人演奏会出演。ピアノを太田幸子、藤井一興、マーティン・ヒューズ各氏に師事。2018年春公演「New Pieces」では宮尾俊太郎振付『Piano Concerto Edvard』でソリストを務める。2021年10月、K-BALLETよりバレエレッスンCD『Reverence Cinq』をリリース。

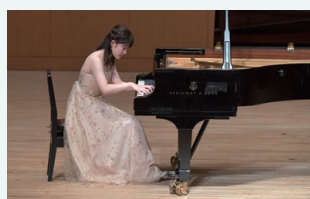
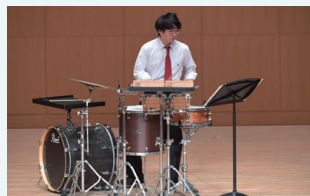
I 演奏会・イベントレポート

主な演奏会&イベントの様子をご紹介します。

Pick Up

第217回定期研究発表演奏会 (ソロの部)

2021年7月11日(日) 東邦音楽大学グランツァール



Pick Up

第10回北関東甲信越 音楽系高等学校演奏会

2021年6月12日(土) 東邦音楽大学グランツァール



東邦第二高校の生徒たち



他校の出演者と集合写真

Pick Up

東邦ミュージック・フェスティバル2021~調和~

2021年10月9日(土)・10日(日) 川越キャンパス



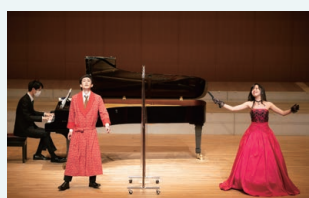
弦楽合奏団 ソリスト 天満 敦子先生



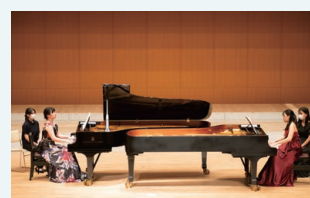
ウインドオーケストラ 指揮 小林 恵子先生



ソリスト 加藤 里志先生(Sax.) 齋藤 充先生(Euph.) 河野 玲子先生(Mari.)



華麗なるオペラの調べ 東邦声楽コンサート



煌めき!!ピアノコンサート



二高スタイリッシュウインドオーケストラ

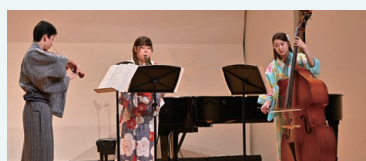
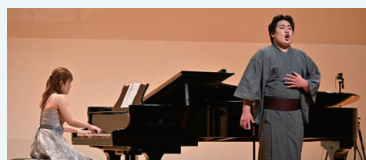


TOHO PERCUSSION ENSEMBLE

Pick Up

~ハンガリーの歌・日本の歌~ 東邦音楽大学ハンガリー配信のための 公開演奏収録(大学4年次生)

2021年10月27日(水) 星野リゾート リゾナーレハケ岳「テアトロガストロノモ」



ハンガリーを訪れてのコンサートがコロナ禍において叶わず、収録した演奏をフィルムコンサートとして現地の方々にご覧いただきました。

Pick Up

短大2年次生卒業記念 修学演奏旅行

2021年10月26日(火)~29日(金) 沖縄県読谷村立喜名小学校



学生が企画・構成した演目を披露。



Pick Up

東邦中学校・東邦高等学校クラシックコンサート ～東京さくらトラム沿線の文化と景観を後世に残す～

2021年10月29日(金) 北とびあ つつじホール



Pick Up

第218回定期研究発表演奏会 (ウインドオーケストラの部)

2021年11月12日(金) ウェスタ川越 大ホール



東邦中学校・高等学校ウインドオーケストラ



東邦第二高等学校ウインドオーケストラ



東邦音楽大学・東邦音楽短期大学ウインドオーケストラ



Pick Up

Konzertfach (演奏専攻)学生による演奏会

2021年11月24日(水) 東邦音楽大学グランツァール



Pick Up

第12回音楽大学オーケストラ・ フェスティバル2021

2021年11月23日(火・祝) ミューザ川崎シンフォニーホール



指揮者に大友 直人氏を招き、チャイコフスキー交響曲第5番を演奏しました。 ©青柳聡



Pick Up

第220回定期研究発表演奏会 (オーケストラの部)

2021年12月4日(土) 和光市民文化センター サンアゼリア大ホール



東邦中学・高等学校・第二高等学校弦楽アンサンブル



指揮 榎 真由先生



東邦音楽大学管弦楽団

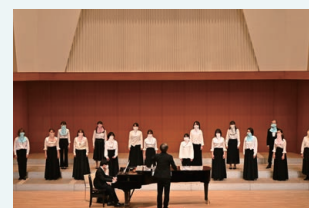


指揮 梅田 俊明先生

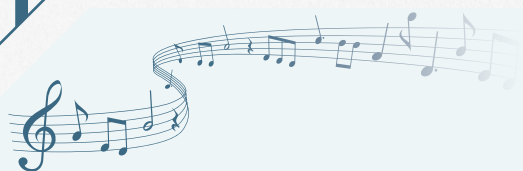
Pick Up

第219回定期研究発表演奏会 (合唱の部)

2021年11月27日(土) 東邦音楽大学グランツァール



出演者および来場者の検温・消毒実施、座席の限定的な使用、常時換気の実施など、様々な感染症拡大防止対策を行いながら開催いたしました。



Pick Up

東邦音楽大学大学院 1年生演奏会

2021年12月18日(土) 東邦音楽大学グランツァール



Pick Up

オペラ彩主催 オペラ「カルメン」

2021年12月18日(土)・19日(日) 和光市民文化センター サンアゼリア大ホール



プロの方と共演できる貴重な機会



佐藤 泰弘先生と第二高校の生徒たち

Pick Up

東邦音楽大学大学院 修士課程学位審査修了演奏会

2022年2月12日(土)・13日(日) 東邦音楽大学グランツァール



Pick Up

第15回トライアルコンサート ～オーケストラとの共演～

2022年2月26日(土) 東邦音楽大学グランツァール



オーディションにより選ばれた学生が、ソリストとして東邦音楽大学管弦楽団と共演しました。

出演者および来場者の検温・消毒実施、座席の限定的な使用、常時換気の実施など、様々な感染症拡大防止対策を行いながら開催いたしました。

卒業生情報センターから卒業生の皆様へ

卒業生情報センターは、卒業生・修了生の皆様と母校との継続的な繋がりや、皆様同士の連携を深めるための窓口として活動しております。演奏家や指導者、音楽教室経営者や講師、また各分野でのプロフェッショナルとしてのご活躍や、ご家庭に入られた方々の視点での想いなど、様々なお立場からの情報やご意見、ご希望などをお気軽にお寄せ下さい。音楽を通し同じ学び舎で青春を過ごされた方々が、移り行く歴史の中で

情報を共有し連携を深める事で、卒業生の皆様そして東邦の更なる発展に繋がる事を軸とした架け橋として努めてまいります。皆様からのご連絡をお待ち申し上げます。

【卒業生情報センター窓口オープンタイム】

TEL: 03-3946-9674 月、水、金 / 10:00~16:00

E-mail: ichiyama.keiichi@m.toho-music.ac.jp 担当: 市山

《卒業生推薦入試》へのお願い

当学園では、大学・同大学院・短期大学をご卒業または修了された方が受験生をご推薦頂ける「卒業生推薦入試制度」を開設しております。

対象: 大学、短大、附属中学・高校・二高の入試

利点: 出身学校の推薦書がなくても「卒業生の推薦書」で受験可能、更に入学試験の「検定料が免除」

詳しくは上記センターへお問い合わせ下さい。ご協力のほどを宜しくお願い申し上げます。

大学・短大 受験生向けイベントスケジュール2022

□ オープンキャンパス

大学(川越キャンパス)

・6/26(日) ・7/24(日)
・8/28(日) ・2023/3/26(日)

短大(文京キャンパス)

・6/19(日) ・7/31(日)
・8/27(日) ・2023/3/25(日)

□ 入学者選抜対策講座(文京キャンパス)

・5/21(土) ・6/18(土) ・7/16(土) ・9/17(土)
・10/1(土) ・11/5(土)

□ 音楽を心身の健康に役立てる～音楽療法入門～(川越キャンパス)

・5/14(土) ・6/4(土) ・7/2(土) ・9/10(土)
・10/15(土) ・11/12(土) ・12/17(土) ・2/25(土)

□ 体験レッスン & 個別進学相談(文京キャンパス)

・4/23(土) ・5/14(土)* ・5/28(土) ・9/24(土)
・11/12(土)* ・11/26(土) ・1/28(土) ・2/18(土)
(*印の日程は川越キャンパスにて実施)

□ Konzertfach(演奏専攻)[ピアノ]説明会 & 特別レッスン(文京キャンパス)

・5/22(日) ・9/11(日)

□ パフォーマンス総合芸術文化専攻プロモーション(文京キャンパス)

・6/12(日) ・7/18(月・祝) ・9/4(日) ・12/18(日)
・3/12(日)

中止・延期・内容変更となる場合がございますので、ウェブサイトにて最新情報をご確認ください。

ご支援のお願い

本学園では、将来を担う学生生徒に対して、より快適な学びの場を提供し、より多くの優れた人材を社会に送り出すための支援策として「21世紀学園整備資金募金」を恒常的に募っております。趣旨をご理解・ご賛同いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

詳しくは本学ウェブサイトをご覧ください。

お問い合わせ先:

学校法人三室戸学園21世紀学園整備資金募集事務局

TEL 03-3946-9666

お知らせ

本誌「Echolle」は段階的に本学Webサイトページへの掲載に移行してまいります。但し、東邦音楽大学・東邦音楽短期大学同窓会[邦友会]会員の皆様におかれましては、引き続きお届けいただいているご住所へお送りいたします。

次号[Echolle Vol.63]は、2023年春ごろ発行予定です。

●掲載されている教職員の役職は2021年度のもので。

新校長就任のお知らせ

令和4年3月末をもちまして、高橋基之 東邦中学・高等学校および東邦音楽学校校長が退任され、4月1日付で林克幸校長が就任いたしました。同じく東邦第二高等学校は、石橋裕校長が退任され、吉原敦子校長が就任いたしました。

元特任教授
白井 英治先生(満71歳)
令和3年5月18日(火)ご逝去

訃報

名誉教授、元図書館長、
元東邦音楽大学附属東邦第二高等学校校長
森川 哲次郎先生(享年92歳)
令和3年8月7日(土)ご逝去

元東邦音楽大学総合芸術研究所教授
神谷 郁代先生(享年75歳)
令和3年10月6日(水)ご逝去

心からご冥福をお祈りするとともに謹んでお悔やみ申し上げます。

演奏会・イベントのご案内

6/11(土)	北関東甲信越音楽系高等学校演奏会	東邦音楽大学 グランツァール
7/17(日)	第221回 定期研究発表演奏会(ソロの部)	東邦音楽大学 グランツァール
7/31(日)	第15回 東邦ピアノセミナー	文京キャンパス
8/20(土)	親子のためのピアノ・オープンキャンパス	川越キャンパス
9/10(土)	2音大クラシック・コンサート	ウェスタ川越 大ホール
10/8(土) 9(日)	東邦ミュージック・フェスティバル2022	川越キャンパス
10/28(金)	東邦中学校・東邦高等学校クラシックコンサート ～東京さくらトラム沿線の文化と景観を後世に残す～	北とぴあ つつじホール
11/23(水・祝)	第222回 定期研究発表演奏会(ウインド・オーケストラの部)	ウェスタ川越 大ホール
11/29(火)	第223回 定期研究発表演奏会(オーケストラの部)	ウェスタ川越 大ホール
12/4(日)	第224回 定期研究発表演奏会(合唱の部)	東邦音楽大学 グランツァール
12/10(土)	第13回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル2022	東京芸術劇場 コンサートホール
3/11(土)	東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 卒業代表演奏会	東邦音楽大学 グランツァール

その他の演奏会、イベント情報および開場・開演時間など詳細は、本学ウェブサイトですぐご案内いたします。

ご住所等の変更がございましたらお知らせください

本誌は、卒業生の皆様に卒業時にお届けいただいているご住所へお送りしておりますため、ご住所、お名前等、変更がございました場合は、当編集部へお知らせいただけますと幸いです。登録情報の変更は、学園ウェブサイトにてお手続きいただけます。郵便や電話にでも受け付けております。なお、ご本人様からの変更手続きのみ承ります。ご了承ください。

※ご連絡いただいた個人情報は厳重に管理し、本誌送付、そのほか学園からの案内等に使用させていただきます。

※近年「職業別名簿」の刊行という名目による個人情報収集の被害が本学園卒業生をはじめ全国で横行しておりますが、本学園では名簿作成や個人情報収集等を第三者(業者)に委託することは一切ございませんので、くれぐれもご注意ください。また、このような被害に関して、本学園および校友会では責任を負いかねますことをご了承ください。

[エコール]編集部



学校法人 三室戸学園

<https://www.toho-music.ac.jp>

スマホ対応! 東邦のウェブサイトはこちら



[川越キャンパス] 〒350-0015 埼玉県川越市今泉84 TEL.049-235-2157

東邦音楽大学・東邦音楽大学附属東邦第二高等学校・東邦音楽大学ミュージックセンター／東邦音楽大学グランツァール

[文京キャンパス] 〒112-0012 東京都文京区大塚4丁目46-9 TEL.03-3946-9667

東邦音楽大学・東邦音楽大学大学院・東邦音楽短期大学・東邦音楽大学附属東邦高等学校・東邦音楽大学附属東邦中学校
東邦音楽大学総合芸術研究所・東邦音楽大学エクステンションセンター・東邦音楽学校／創立50周年記念館

[TOHOウィーンキャンパス] Wien, AUSTRIA 東邦ウィーンアカデミー